

2024年度 事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2024年度事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2024年度は、3年に1度の報酬改定があり、各サービスの報酬や基準等について大幅な見直しが行われました。まず、物価高騰や働き手が減少する中で、人材確保への対策として既存の加算を一本化する処遇改善加算が新たに設けられ、ベースアップへ繋がるような仕組みとなり、また、利用者の方へのサービスの質の確保・向上のため、支援体制の評価や支援時間を考慮したきめ細かい設定となりました。札幌この実会では、特に生活介護について、サービス提供時間別に報酬単価が設定されたため、2024年度は厳しい運営状況になると予想されましたが、職員全体でサービス提供時間を確保して報酬へ結びつけることができ、その他、重度障害者支援加算の拡充もあり、2024年度も昨年度に引き続き、安定した経営成績を残すことができました。

2023年5月に札幌市西区土木部より依頼があった「この実支援センター水道施設移設工事」について、入札により業者選定を行い、3度の設計変更がありましたが、事故等も無く無事に完成することができました。関係各所の方々には、多くのご協力をいただき深く感謝申し上げます。

「中長期的な日中活動の体制の見直しの方向性」については、9月から3月までの理事会で意見交換を行い、①高齢化への対策②誰もが地域社会の中で普通の暮らしが長く続けられる体制③今後も法人の使命を果たしていくため(先細りしないように)の3つに着目し、方向性を決議しました。今後の取り組む具体的な内容については、これまで議論を続けてきた調整会議の他、職員を巻き込んだ議論を行うため、将来展望と具体策の取り組みである「みらい会議」において、サービス管理責任者を中心としたメンバーでも併せて検討していきます。

重要課題となっている人材確保に向けて、正職員の働き方の改善(公休数の増加)のため就業規則を改定した他、奨学金返還支援(代理返還)の制度を設けました。2025年3月より新規学卒者向けの求人サイトや有償の企業説明会で、これらの取り組みをアピールしたところ、その反響はよく、問い合わせや法人見学等が増えているため次年度以降の確保へ繋がることを期待されます。

1. 理事会・評議員会について

2024年度に実施した理事会並びに評議員会の状況は次のとおりです。

※…決議があったものとみなされた日

開催年月日	機 関	決議事項
※ 2024年 4月9日	理事会 (決議の省略)	エアコン(7棟一括)工事の承認
2024年 6月1日	理事会	2023年度事業報告及び決算の承認 日中活動及びグループホームの体制の見直し 給与規程の改定 この実支援センター水道施設移設工事 定時評議員会の招集
2024年 6月22日	定時評議員会	2023年度事業報告 2023年度決算の承認
2024年 7月22日	理事会	日中活動の体制の見直し
2024年 9月21日	理事会	就業規則の改定 北海道電力の次期提案
2024年 12月14日	理事会	定款の変更の提案 2024年度補正予算の同意 就業規則の改定 補償契約及び役員等損害賠償責任保険契約 評議員会の招集 グループホーム「ふらっと」のスプリンクラー設置
2024年 12月21日	評議員会	定款の変更の決議 2024年度補正予算の承認
※ 2025年 2月6日	理事会 (決議の省略)	「ふらっと」スプリンクラー設備設計監理業務の承認
2025年 3月14日	理事会	2025年度事業計画及び収支予算の同意 2025年度職員体制 中長期的な日中活動の体制の見直しの方向性 就業規則の改定 職員の奨学金返還支援に関する規程の制定 「ふらっと」スプリンクラー設備設置工事の入札 緊急時電源車両の購入 リース期間満了に伴う車両の入れ替え 契約の自動更新の承認 評議員会の招集
2025年 3月22日	評議員会	2025年度事業計画の承認 2025年度収支予算の承認

2. 監事監査について

2024年度に実施した監事監査は次のとおりです。

第1回 2024年5月17日(平岡監事、高橋監事)

第2回 2024年9月2日(平岡監事)、9月4日(高橋監事)

第3回 2024年11月29日(平岡監事、高橋監事)

第4回 2025年2月26日(平岡監事) 2月28日(高橋監事)

3. 事業指定について

2024年度における事業指定の変更は次のとおりです。

(4月)

この実らいふネット、運営規程を変更(利用者から受領する費用の額)

この実みなぼっけ、運営規程を変更(利用者から受領する費用の額)

相談室みすくうえる、管理者・法令遵守責任者を変更

(7月)

この実らいふネット、2住居定員変更(1増1減、事業所定員変更無)

(9月)

この実支援センターうえるなつつ(就労継続支援B型)、事業所を琴似 1 条 5 丁目から西野 969-2 へ移転し、定員15名を10名に変更

うえるなつつの定員変更に伴いこの実支援センター、多機能型等定員区分変更(定員 55 名を 50 名に変更)

(12月)

この実らいふネット、サテライト型住居「コートロティ」開設(定員1名)、ふらっと定員1名減(1増1減、事業所定員変更無)、サービス管理責任者を変更

この実みなぼっけ、サービス管理責任者を変更

4. 事業運営について

2024年度に実施した事業の運営状況は次のとおりです。

この実サポートステーション

■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

【定員】40 人 【年間利用者延べ人数】10,579 人(新方式 9,226 人)

【平均利用者数】39.4 人(新方式 34.3 人) 【平均区分】4.6

【体制】福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

■短期入所事業 りらつく

【定員】6 人 【年間利用者延べ人数】941 人 【利用者実人数】19 人

【体制】食事提供体制

1 重点目標

令和6年度の重点目標①「職員間のチームワークの向上」、②「提供する活動内容

の質の充実」、③「個々の利用者の権利擁護」。目標への具体的な取り組み①:定期的にサビ管、日課編成担当、現場のリーダー格の職員らによる会議を行い、その時々
に支援の現場で起きている課題について検討し、都度修正や改善を加えていきました。
②:椎茸栽培やモノづくりなどの新しい活動に取り組むなかで職員間に「これまでの
活動のあり方を変えていく」という意識を浸透させることができました。

2 個別支援計画

基本方針である制度に則って個別支援計画を適正に運用することができました。当
年度より支援計画の運用において個別支援会議に先立った支援計画案の作成および
支援会議への当事者の参加を加えることになりました。

3 生活介護事業所すてっぷ

(1) 日中活動

サポートステーション本体の28名と盤溪での屋外活動を行う3グループ14名の編成
で4月より活動を開始しています。

【サポート本体を拠点にした活動】

創作、散策等の屋外活動、レクリエーションの3つの柱で活動を組み立てました。10
月に全体を3つのグループに編成し直してグループごとの活動の方向性を明確にして
います。

【盤溪を拠点にした屋外活動】

夏までに乗馬関連の設備の撤去、こもれびの家周辺の環境整備および椎茸栽培の
設備の整備を完了させています。

・こもれびの家:前期はこもれびの家を拠点にして散策や創作、花壇やプランター(サ
ツマイモ栽培)への水やり、畑の収穫の手伝いなどの活動を行っています。後期はメン
バーを再編して、こもれびの家の敷地内の除雪やかまくら作りなどを行いました。

・椎茸栽培:9月下旬から10月上旬にかけての試験栽培の結果、次年度も栽培を継
続していく目途が立ちました。3月には新たに100本分の原木および形成駒(菌)を購
入して、盤溪にて植菌作業を行いました。

・公園清掃:5月1日～11月5日の期間、札幌市からの委託業務として西野南公園(西
野10条6、7丁目)の清掃を行いました。

(2) 余暇活動

・実施した余暇活動:5月、6月:盤溪 BBQ、8月:盆踊り、10月:からまつ山荘でのカレ
ー作り。

・誕生日外出:標準的な支援の提供時間内に行えること、職員の食事代を除く諸費用
については利用者負担とすることを基本的な枠組みとして企画を立案し、利用者全員
を対象として実施しました。

(3) 行事

・実施した行事:この実オータムフェスティバル(9月)、法人忘年会(12月)、クリスマス

会(12月)、新年会(1月)

4 保護者との連携

- ・保護者会を4月と12月に実施しています。
- ・4月の主な内容:サービス等報酬改定に伴う事業所運営上の変更点についての説明、新年度の日中活動の概要など。
- ・12月の主な内容:マイナ保険証についての説明、ここまでの活動報告。

5 食と健康

- ・給食:利用者への「安全安心な食事の提供」のための配慮を怠らずに業務に当たりました。年度を通して事故等の発生はありませんでした。調理員が1名体制の際は必要に応じて外部の業者を利用して弁当を提供しています。
- ・健康管理:コミュニティライフこの実の看護師と連携して利用者への健康管理および安全、衛生についての支援にあたりました。例年通り利用者の健康診断、インフルエンザワクチン接種を実施しています。

6 短期入所「りらく」

○単独型短期入所棟として、当年度も主に通所利用者の宿泊体験や、その家族の休息のために宿泊の受け入れを行いました。

- ・当年度の稼働日数:253日(月の平均稼働日数:21.25日)
- ・当年度の利用者:19名(サポートの在宅通所16名、支援センターの在宅通所1名、外部2名)
- ・当年度の宿泊総数:949(在宅通所利用者824、外部利用者125)

この実支援センター

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

【定員】40人 【年間利用者延べ人数】9,143人(新方式 6,547人)

【平均利用者数】34.0人(新方式 24.4人) 【平均区分】4.5

【体制】福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

生活介護事業所「おりーぶ」では笑顔で、利用者が安心した1日を過ごせるように支援を行いました。施設内を明るく楽しく彩る等、各季節に応じた行事を考え、利用者にも季節感を感じてもらえるよう心掛けました。

今年度も感染防止の徹底に努め、マスク着用や手洗い等、利用者の特性上、苦手な方がいるものの、感染拡大防止を徹底し、除菌と衛生の保持・向上に心掛けました。

加齢に伴う運動不足・機能低下が見られ、機能維持・向上を図る活動として、外でのウォーキングや室内で身体を動かしながら楽しめるレクリエーション活動を実施しました。

作業中の転倒や、外出先での転倒等見られた年でしたので、今後無いように事故防止に努めていきたいと思えます。

■ **就労継続支援B型事業** この実支援センター うえるなつつ

【定員】～8月 15人 9月～ 10人 【年間利用者延べ人数】2,838人

【平均利用者数】10.6人

【体制等】福祉専門職員配置等 施設外就労

今年度の9月から、開設当初からの活動場所であった松井ビル(琴似1条5丁目)から支援センターへ場所を移し活動しています。場所を移したと同時に、定員を15名から10名に変更し比較的年齢の高い3名は生活介護事業所「おりーぶ」の所属となりました。

職員の異動や退職に伴い、今まで行ってきた、道営住宅の清掃、サポートステーションの清掃、ポスティングに関しては今年度をもって終了する事となり、今後は日本仮設株式会社(施設外・下請け)とブックオフ(施設外・下請け)を行っていきます。

場所を移す事により、色々な職員が携わる事ができ、1名の利用者が2024年11月より就職活動を進め、2025年3月に札幌市の教育委員会福祉補助員として小学校に配置される事となり、一般就労に繋げる事ができました。

コミュニティライフこの実

大きな疾病の予後の体制を考えるうえで数年単位でのハード面や職員の意識・介護技術の向上など利用者と共に歩んでいける体制づくりの一環として、女性利用者の高齢化に伴う夜勤体制のホームの必要性の高まりから、7月に「ぷらむ」の男性利用者と「ケアホーム969」の女性利用者の入替えを行いました。

外出や帰省については、新型コロナウイルス感染症流行前の状態に戻していき、また移動支援や行動援護サービスの利用も再開し余暇の幅を広げることが出来ました。身体障がいを持つ方の介護度が急激に上昇した為、補助金を活用して介護用ロボット「マッスルスーツ」を導入しました。

■ **共同生活援助事業** この実らいふネット

【定員】50人 【共同生活住居】～11月 9ヵ所 12月～ 10ヵ所

【年間利用者延べ人数】17,021人 【平均利用者数】46.7人 【平均区分】4.3

【体制】介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

利用者の高齢化・重度化については、1名が脳腫瘍のため亡くなりました。配薬について、8月に「すいんぐ」と「すきっぷ」で訪問薬局を導入しました。11月に女性のホーム見直しを図り引越しを行いました。このことで、認知症の方や強度行動障害を認められる方が、落ち着いた生活を送ることが出来るようになっていきます。

1人暮らしに向けた取り組みを行っていた利用者は12月1日よりサテライト型の制度を活用し、1人暮らしへの1歩を踏み出しています。

■ **共同生活援助事業** この実みなぼつけ

【定員】19人 【共同生活住居】2ヵ所

【年間利用者延べ人数】6,322人 【平均利用者数】17.4人 【平均区分】4.9

【体制】日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制
重度障害者支援職員配置

■ **短期入所事業** この実みなぼつけ

【定員】1人 【年間利用者延べ人数】0人 【利用者実人数】0人

【体制】

日中を「みなぼつけ」で過ごす方については、週に1度は外出の機会を設けました。身体に麻痺のある方は食事量や活動時間が徐々に減少し、1月より長期入院の状態になっています。7月に「ぷらむ」が女性利用者のホームになり、認知症の症状のある方や骨折での退院後のケアが必要な方の対応を行うことが出来ています。短期入所については、7月から女性利用者のホームになり法人内の女性利用者からの要望がなく利用はありませんでした。

相談室みすくうえる

■ **特定相談支援事業** 相談室みすくうえる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)234件

■ **一般相談支援事業** 相談室みすくうえる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)0件

今年度は新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から2類相当が5類感染症に変わり、本人とお会いしながらのモニタリングが本格的に行えるようになった年でもあります。

現在、契約件数は78名(札幌この実会35名、藻岩この実会38名、その他5名)でサービス利用計画の作成や定期的(3ヶ月・6ヶ月)なモニタリングを主に行っています

今年度は、2名(自法人の新規のケース 1 名、セルフプランからの移行1名)契約しています。

藻岩この実会第2この実寮・グループホーム利用者で長期入院や死亡によりサービス利用行わなくなったケースもありました。

契約しているケースで、通所から家族との関係性崩壊により緊急入院、退院してからの生活場所についてカンファレンスを重ね入所施設に繋げております。

藻岩この実会とは連携をとり、令和7年度にも2名の利用者を受け入れる予定になっています。

今年度は他の事業所への訪問を行いましたはまだまだ少ないと感じております。今後も状況をみながらではありますが、事業所訪問や他事業所との連携が取れるようにしていきたいと思っております。

5. 地域における公益的な取り組みについては、

2024年度の地域における公益的な取り組みは、朝市、外作業班による地域貢献活動、福祉除雪、清掃活動、及び福祉総合相談を行いました。また、みらい会議(Ⅳ)「外部に開かれた運営を目指す」チームの課題の1つとして検討を行いました。

2024年度 決算の概要

社会福祉法人 札幌この実会

2024年度の事業活動計算では、法人合計(サービス活動+サービス活動外)で収益が約5億120万円(※1)の一方、費用が約4億9477万円(※2)となり、経常増減差額はプラス約644万円となりました。

(※1)…サービス活動収益・約4億9583万円+サービス活動外収益・約538万円

(※2)…サービス活動費用・約4億9049万円+サービス活動外費用・約427万円

次に当該差額に特別増減差額(プラス約588万円)を加算した当期活動増減差額はプラス約1232万円となり、更に国庫補助金等特別積立金のプラス約3323万円と合わせて、純資産は前年度から約4555万円増加して約10億3718万円となりました。

前年度に比べ、収益がマイナス約441万円(※3)の一方、費用はプラス約77万円(※4)となり、経常増減差額は前年度のプラス約1162万円から約518万円減少しました。

(※3)…収益減の主な要因

【就労支援事業収益】…マイナス約50万円

【障害福祉サービス等事業収益】…プラス約347万円

(日中活動:プラス347万円、GH:マイナス約33万円、相談支援事業:プラス約33万円)

【経常経費寄附金収益】…マイナス約813万円

【受取利息配当金収益】…プラス約10万円

【その他のサービス活動外収益】…プラス約64万円

(※4)…費用増の主な要因

【人件費】…マイナス約498万円

【事業費】…プラス約163万円 【事務費】…プラス約371万円

【就労支援事業費用】…マイナス約45万円 【作業指導付帯費用】…マイナス約28万円

【減価償却費】…プラス約145万円 【国庫補助金等特別積立金取崩額】…マイナス約28万円

資金収支計算では、補正予算に比べ、事業活動資金収支差額がマイナス約493万円、施設整備等資金収支差額がプラス約49万円(※5)、その他の活動資金収支差額がプラス約496万円(※6)で、当期末支払資金残高はプラス約53万円の約1億9839万円(対前年度プラス約274万円)となりました。

積立資産(退職給付引当資産を除く)は予算に基づく積み立て及び取り崩しを行い、約2億3720万円(対前年度プラス約2381万円)となりました。

(※5)…施設整備等資金収支差額増の主な要因

固定資産取得支出の減

(※6)…その他の活動資金収支差額増の主な要因

北海道民間社会福祉事業職員共済会退職金処理:退職給付引当資産取崩収入約467万円

また、2024年度の算定において、社会福祉充実残額(再投下可能な財産)は生じなかったことから、社会福祉充実計画の策定は不要となりました。

《2024年度の算定》

①「活用可能な財産」…346,870,931円

②「社会福祉法に基づく事業に活用している不動産等」…0円

③再取得に必要な財産…408,382,870円

④必要な運転資金…117,852,107円

社会福祉充実残額=①-(②+③+④)≒▲179,330,000円

2024年度決算資料(概要)

社会福祉法人 札幌この実会

■事業活動計算書

※1万円未満四捨五入

	本年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部			
収 益	4億9583万円	5億0098万円	▲515万円
費 用	4億9049万円	4億8969万円	81万円
増減差額	533万円	1129万円	▲596万円
サービス活動外増減の部			
収 益	538万円	464万円	74万円
費 用	427万円	431万円	▲4万円
増減差額	110万円	33万円	78万円
経常増減差額	644万円	1162万円	▲518万円
特別増減の部			
収 益	4759万円	393万円	4366万円
費 用	4171万円	680万円	3491万円
増減差額	588万円	▲286万円	875万円
当期活動増減差額	1232万円	875万円	357万円

■貸借対照表

※1万円未満四捨五入

【流動資産】	2億1142万円	【流動負債】	1303万円
【固定資産】	8億7219万円	【固定負債】	3340万円
《資産合計》	10億8362万円	【純資産】	10億3718万円
		対前年度	4555万円

■資金収支計算書

※1万円未満四捨五入

	予算	決算	差異
事業活動による収支			
収 入	5億 298万円	5億 120万円	178万円
支 出	4億6815万円	4億7130万円	▲315万円
収支差額	3483万円	2990万円	493万円
施設整備等による収支			
収 入	4744万円	4759万円	▲16万円
支 出	5248万円	5214万円	34万円
収支差額	▲504万円	▲455万円	▲49万円
その他の活動による収支			
収 入	321万円	819万円	▲499万円
支 出	3077万円	3080万円	▲3万円
収支差額	▲2757万円	▲2261万円	▲496万円
当期資金収支差額合計	222万円	274万円	▲53万円

支払資金	1億9839万円	対前年度 274万円増
積立資産	2億3720万円	対前年度 2381万円増

実績の推移

年間利用者延べ人数		実績					見込
		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
サポートステーション	生活介護	10,230	10,275	10,042	10,389	10,579	10,500
	短期入所	813	826	983	1,133	941	900
この実支援センター	生活介護	9,540	9,605	9,333	9,096	9,143	9,500
	就労継続B型	3,061	2,931	3,425	3,328	2,838	2,300
この実らひふネット	GH	16,457	17,055	17,037	16,969	17,021	17,100
この実みなぼっけ	GH	6,745	6,740	6,690	6,755	6,322	6,000
	短期入所	28	0	95	75	0	0
合計		46,874	47,432	47,605	47,745	46,844	46,300

事業活動計算	決算					当初予算/加工
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
サービス活動収益	449,098,618	470,522,908	485,059,922	500,977,732	495,825,385	485,353,000
サービス活動外収益	8,254,685	5,941,145	5,080,524	4,636,649	5,376,875	4,512,000
収益合計(除・特別)	457,353,303	476,464,053	490,140,446	505,614,381	501,202,260	489,865,000
サービス活動費用	462,741,494	460,390,975	486,988,891	489,688,949	490,493,983	504,440,000
サービス活動外費用	4,306,620	3,853,929	3,983,563	4,307,511	4,271,907	4,420,000
費用合計(除・特別)	467,048,114	464,244,904	490,972,454	493,996,460	494,765,890	508,860,000
経常増減差額	-9,694,811	12,219,149	-832,008	11,617,921	6,436,370	-18,995,000
特別増減差額	4,444,801	-51,181	69,254	-2,863,939	5,882,994	3,500,000
当期活動増減差額	-5,250,010	12,167,968	-762,754	8,753,982	12,319,364	-15,495,000

人件費	322,584,436	311,900,680	332,169,940	332,517,711	327,535,695	346,050,000
業務委託費	12,012,000	12,012,000	11,352,000	10,315,136	11,164,558	11,165,000
人件費合計	334,596,436	323,912,680	343,521,940	342,832,847	338,700,253	357,215,000

積立資産(年度末残高)	197,708,000	201,659,000	207,661,000	213,390,000	237,200,000	217,513,000
人件費積立資産	87,300,000	87,300,000	83,300,000	88,300,000	88,300,000	78,300,000
修繕積立資産	12,300,000	12,800,000	11,900,000	11,900,000	19,900,000	19,400,000
備品等購入積立資産	10,400,000	9,316,000	9,316,000	7,316,000	13,316,000	12,816,000
減価償却積立資産	55,308,000	60,843,000	67,745,000	72,954,000	77,764,000	82,959,000
建設積立資産	29,700,000	28,700,000	29,700,000	22,220,000	27,220,000	13,338,000
工賃変動積立資産	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
設備等整備積立資産	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
その他の積立資産	2,000,000	2,000,000	5,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000

人件費積立資産	87,300,000	87,300,000	83,300,000	88,300,000	88,300,000	78,300,000
対前年度増減	57,800,000	0	-4,000,000	5,000,000	0	-10,000,000